聖書を知る
聖書とは
聖書翻訳の研究
聖書ができるまで
聖書翻訳の歴史
口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳 について
新翻訳事業について

聖書事業懇談会

それでも新聖書翻訳

津村 春英氏
2015年4月10日
於・梅田スカイビル・タワーイースト

はじめに

新共同訳聖書にやっと慣れたのに、なぜ今、新しい翻訳聖書が必要かという声を聴く。そういう新共同訳も世に出て早30年を数えようとしている。『NHK新用字用語辞典』の巻頭に、「“ことば”は生き物です。」とあるように、日本語は日々変化している。30年という年月は、次世代の人々に向けて、訳本を見直すのに十分な根拠を与える年数と考えられる。

他方、この間に委員会訳の新しい邦訳聖書や改訂版が登場したが、それらの底本としているネストレ＝アーラント・ギリシア語新約聖書が2012年秋に、ドイツ聖書協会からに改訂28版として出版された。とりわけ公同書簡の本文については、34個所の本文の変更が見られる(この「序文」は筆者訳で2013年12月に日本聖書協会より出版されている)。さらに、ここ数十年間の神学的営みから得られた果実が聖書翻訳の中に生かされなければならないと考える。今回の新翻訳聖書はスコポス理論に則り、礼拝(典礼)に使用することをその目的としている。

今年の聖書事業懇談会の講演の主題は、昨年に引き続き、「どんな翻訳になるのですか？」—新しい聖書の特徴Ⅱ—としている。新約聖書の一部の翻訳と編集委員を委嘱されている立場から、筆者は、「それでも新聖書翻訳」と題して、新しい聖書翻訳の具体的な聖書箇所のいくつかについて、従来の諸訳の問題点を指摘しながら以下に説明したい。ただし、現段階では、最終的にどういう訳になるかについては詳細に提示することができない。なお、全体のボリュームを考慮しながら、本文批評上の別訳や必要最小限の説明を加えることが、使用者に親切でやさしい聖書になると考えている。

本論

新約聖書において、翻訳上問題となる個所や興味ある個所のいくつかについて、以下にその要点を示す。なお、まずは新共同訳、新改訳、口語訳、文語訳を併記し、他の訳も参照する。略記として、新共:新共同訳、新改:新改訳、口語:口語訳、文語:文語訳、フラ:フランシスコ会訳(2013)、岩波:新約聖書翻訳委員会訳、田川:田川建三訳、NA:ネストレ＝アーラント・ギリシア語新約聖書などを用いる。

1.本文批評上からいくつかの例

最近の新約聖書の邦訳は、ネストレ＝アーラント・ギリシア語新約聖書(NA)と同じ本文の世界聖書協会新約聖書(UBS)を底本とし、NAは28版（NA^{28}）、UBSは5版(UBS^{5})が最新のものである。一昨年に出版されたNA^{28}は、新約聖書大型批評版 Editio Critica Maiorの研究成果から、公同書簡の本文に34個所の変更を採用している。ただし、新共同訳聖書で、以前の底本に必ずしも準拠していなかった個所が実際には存在していた。ここでは本文批評の違いから生じる個所をまず取りあげる。

前のページへ 1 2 3 4 5 次のページへ

■このページに関するお問合せは
一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部
〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1
TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

ページの先頭に戻る ▲
▶ご利用規約 ▶プライバシーの保護について ▶このサイトに関するお問い合わせ

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

聖書を知る
- 聖書とは
- 聖書翻訳の研究
- 聖書ができるまで
- 聖書翻訳の歴史
- 口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳 について
- 新翻訳事業について

聖書事業懇談会

それでも新聖書翻訳

津村 春英氏
2015年4月10日
於・梅田スカイビル・タワーイースト

1) ヨハネ福音書1：3-4

ヨハネ福音書1:3, 4の従来の諸訳は、ネストレに準拠しておらず、新共同訳も以前の25版の本文のままであった。諸訳は、「この言に命があった」と訳しているが、ネストレ文によると、[3]ホ　ゲゴネン　[4]エン　アウトー　ゾーエー　エーン(カンマ)であって、文は「ホ」から始まり「エーン」で区切られていて、4節の「エン　アウトー」(彼にあって)は前の「ホ　ゲゴネン」(生じたもの)にかかり、「彼(言)にあって(おいて、うちに)生じたものは、命であった」と訳さねばならないが、従来は、「生じたもの(ホ　ゲゴネン)」を前の文の主語として訳していた。なお、NRS89はWhat has come into being [4] in him was life,とNAに従って訳出し、注記に従来の訳を提示している。以下に、従来の訳と最近の訳を示す。

新共　[3] 万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。[4] 言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。

新改　[3] すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。[4] この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。

口語　[3] すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。[4] この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

文語　[3] 萬の物これに由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成りたるはなし。[4] 之に生命あり、この生命は人の光なりき。

フラ　[3] すべてのものは、み言葉によってできた。できたもので、み言葉によらずにできたものは何一つなかった。[4] み言葉の内に命があった。この命は人間の光であった。

岩波　[3] すべてのことは、彼を介して生じた。彼をさしおいてはなに一つ生じなかった。彼において生じたことは、生命(いのち)であり、その生命は人々の光であった。

田川　[3–4] 万物がそれによって生じた。そしてそれなしには何一つ生じなかった。それにおいて生じたものは、生命であった。そして生命は人間たちの光であった。

2)コリント一13:3　「誇るために」か「焼かれるために」か

コリント一13:3について、ネストレ本文はカウケーソーマイ(誇る:支持する写本はp46, シナイ、A, B写本)であるが、カウセーソマイ(焼かれる:C, D, 010写本)及びカウセーソーマイ(焼かれる:接続法、044写本と小文字写本)などの写本も存在する。なお、新共同訳は前者を採用している。

新共　3 全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

新改　3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。

口語　3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

文語　3 たとひ我わが財産をことごとく施し、又わが體を焼かるる爲に付すとも、愛なくば我に益なし。

フラ　3 たとえ、全財産を貧しい人に分け与え、たとえ、賞賛を受けるために自分の身を引き渡しても、愛がなければ、わたしには何か益にもならない。

岩波　3 たとえ私が、私のすべての財産を分け与えたとしても、またもしも私が、私のからだを焼かれるために引き渡したとしても、しかし私が愛をもってはいないなら、私は何の役にも立たない。

田川　3 あるいは自分の財産を人に食べさせるために提供し、あるいは自分の身体を焼かれるためにわたそうとも、愛を持っていなければ、私は何の役にも立たない。

3)ヨハネ一5:18(NA^{28}で本文変更)

筆者がSOWER41号誌の聖書セミナーにおいて指摘したヨハネの手紙一5:18であるが、NA^{28}では、「アウトン」(彼を)から、シナイ写本などを証拠とする「ヘアウトン」(自分自身を)に本文の変更がなされた。つまり、「神から生まれた者は自分自身を守り、それで悪しき者が彼に触れることはありません」というような訳になるであろう。

新共　18 わたしたちは知っています。すべて神から生まれた者は罪を犯しません。神からお生まれになった方が、その人を守ってくださり、悪い者は手を触れることができません。

新改　18 神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守っていてくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。

口語　18 すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない。

文語　18 凡て神より生れたる者の罪を犯さぬことを我らは知る。神より生れ給ひし者、これを守りたまふ故に、惡しきもの觸るる事をせざるなり。

フラ　18 神から生れた者はみな、罪を犯さないことを、わたしたちは知っています。神から生れた方がその人を守ってくださり、悪い者はその人に手を触れることができません。

岩波　18 私たちにわかっているように、すべて神から生れた者は罪を犯さない。むしろ神から生れた者は(神が)彼を守って下さる。そして悪しき者はこれに手を触れない。

田川　18 我々は知っている、神から生れた者はみな罪を犯すことなく、神から生れた者は自分自身を守り、そして悪しき者がその者にふれることはない、と。

前のページへ　1　2　3　4　5　次のページへ

■このページに関するお問合せは

聖書を知る
聖書とは
聖書翻訳の研究
聖書ができるまで
聖書翻訳の歴史
口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳 について
新翻訳事業について

聖書事業懇談会

それでも新聖書翻訳

津村 春英氏
2015年4月10日
於・梅田スカイビル・タワーイースト

2.語の欠如(不足)などによる難解な個所

次に、文の主語や目的語(補語)が明確でない例をあげる。

1) ローマ8:28　主語が隠されている場合

ネストレ本文は、パンタ　シュネルゲイ　エイス　アガソンであり、シナイ、C, D写本の読みを採用しているのに対して、p46, A, B写本は、シュネルゲイの後に、ホ　セオス(神)が入っている。主語としての「神」を補ったと解釈される。三人称単数動詞シュネルゲイ(共に＋働く)を支配する主語を「神」とするのが、口語、新改、である一方、パンタ(すべてのこと)を主語とするのは：文語、フラ、田川、新共、NRS89などである。なお、バウアーBauer辞典には、シュネルゲオーは、誰かが何かを得、何かをもたらすのを助ける(共に働く)、とある。

新共　28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

新改　28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

口語　28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さる

文語　28 神を愛する者、すなはち御旨によりて召されたる者の爲には、凡てのこと相働きて益となるを我らは知る。

フラ　28 神を愛する人々、すなわち、ご計画に従って召された人々のために益となるように、すべてが互いに働き合うことをわたしたちは知っています。

岩波　28 神を愛する者たち、すなわち(神の)計画に従って召された者たちにとっては、すべてのこと

が共に働いて善へと至る、ということを私たちは知っている。

田川　[28] 神を愛する者たち、つまり（神の）計画に従って召された者たちのためには一切が良い方向へと働く、ということを我々は知っている。

NRB89　[28] We know that all things work together for good for those who love God, who are called according to his purpose.

2) コリント一7:21　動詞の目的語（補語）がない場合　　cf.7:17, 20

新共同訳以前の委員会訳はすべて「自由の身になる」ことを勧めているが、新共同訳は「奴隷に留まる」と訳出している。これは「クラオマイ」(利用する)には通常、与格の目的語が続くが、この文には存在しないゆえに、その解釈が議論される。この段落の初めは、新共同訳では、7:17「おのおの主から分け与えられた分に応じ、それぞれ神に召されたときの身分のままで歩みなさい」。そして、この段落の結論としては、7:24「兄弟たち、おのおの召されたときの身分のまま、神の前にとどまっていなさい」。とあるので、21節が「自由になりなさい」と訳せば、例外規定を述べていることになる。

新共　[21] 召されたときに奴隷であった人も、そのことを気にしてはいけません。自由の身になることができるとしても、むしろそのままでいなさい。

新改　[21] 奴隷の状態で召されたのなら、それを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさい。

口語　[21] 召されたとき奴隷であっても、それを気にしないがよい。しかし、もし自由の身になりうるなら、むしろ自由になりなさい。

文語　[21] なんぢ奴隷にて召されたるか、之を思ひ煩ふな（もし釋さるることを得ばゆるされよ）

フラ　[21]…しかし、もし自由の身になることができるなら、そうしたほうがよいでしょう。

岩波　[21] あなたが奴隷として召されたのなら、そのことで悩まぬようにしなさい。しかし、たとえあなたが自由人になることができるとしても、あなたはむしろ(神の召しそのものは大切に)用いなさい。

田川　[21] 招かれた時に奴隷であったとしても、気にすることはない。たとえ自由になれる可能であっても、むしろ用いるがよい。（奴隷であるということをそのまま保っているがよい、という趣旨）

NRS89　[21] Were you a slave when called? Do not be concerned about it. Even if you can gain your freedom, make use of your present condition now more than ever.

3) ヨハネの手紙一2:20　動詞の目的語がない場合２.

ヨハネの手紙一2:20の終わりの部分の「オイダテ(あなたがたはわかっている)　パンテス(すべて)」、直訳は、「あなたがたは皆、わかっている」であり、その目的語がない。そこで、邦訳では、その目的語を補うことになり、たとえば、「真理」（新共）や「知識」（新改, NRS89も）を補っているが、ここは19節の「彼らは皆」と同じように、「あなたがたは皆、わかっています」の意であると思われる。対格「パンタ」（すべてを）の異読があり、文語訳、フランシスコ訳はこちらを取るが、本文批評上は複数主格「パンテス」がオリジナルと思われるので、「あなたがたは皆、わかっています。」で良いと思われる。

新共　[20] しかし、あなたがたは聖なる方から油を注がれているので、皆、真理を知っています。

新改　[20] あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、だれでも知識を持っています。

口語　[20] しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。

文語　[20] 汝らは聖なる者より油注がれたれば、凡ての事を知る。

フラ　[20] しかし、あなた方には、聖なる方から受けた塗油があります。それで、あなたがたはすべてを知っています。

岩波　[20] あなたがたは聖なる方から塗油を受けており、そのために皆わかっている。

田川　[20]あなた方は、聖なるもの(者？)から注ぎを受けていて、(そのことは？)あなた方みなが知っ

ているのだ。

NRS89 20 But you have been anointed by the Holy One, and all of you have knowledge.

前のページへ 1 2 3 4 5 次のページへ

■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

ページの先頭に戻る ▲

▶ご利用規約 ▶プライバシーの保護について ▶このサイトに関するお問い合わせ

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

聖書を知る
聖書とは
聖書翻訳の研究
聖書ができるまで
聖書翻訳の歴史
口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳 について
新翻訳事業について

聖書事業懇談会

それでも新聖書翻訳

津村 春英氏
2015年4月10日
於・梅田スカイビル・タワーイースト

3.用語の解釈

1)ヨハネ黙示録1:15；2:18　真鍮brassか青銅bronzeか？

青銅は銅と錫の合金であり、真鍮は銅と鉛の合金であるが、歴史的には青銅の方が古く、青銅は紀元前3000年頃、初期のメソポタミア文明であるシュメール文明で発明されている。また、イラン高原は、銅と錫が豊富であったと言われている。ヨハネ黙示録1:15と2:18 のみに、カルコレバノンが出ていて、レバノンのカルコス(銅)とも読める。 バウアーの辞典にはレバノンの一つの金属であったという説が紹介されている。

参考までに、新共同訳では黙示録 18:12 カルコス(青銅)、その他カルコスが出て来るのは、マタイ10:9 に、クリュソス(金貨), アルギュロス(銀貨)とともに、カルコス(銅貨)、平行記事のマルコ6:8 カルコス(金(かね)？)、なおもうひとつの平行記事のルカ9:3ではアルギュリオン(銀貨); マルコ12:41カルコス(金(かね)？)、その平行記事のルカ21:1-4では、レプトン銅貨2枚); コリントー13:1カルコス(どら)、マルコ 7:4カルキオン(銅の容器)となっている。

ちなみに日本の硬貨は、10円：銅95と鉛4-3と錫2-1%、5円：銅60-70と鉛40-30%＝真鍮、50, 100, 500円は白銅:ニッケル25%との合金である。

新共　15 足は炉で精錬されたしんちゅうのように輝き、声は大水のとどろきのようであった。

新改　15 その足は、炉で精練されて光り輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった。

口語　15 その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、声は大水のとどろきのようであった。

文語　15 その足は爐にて燒きたる輝ける眞鍮のごとく、その聲は衆の水の聲のごとし。

フラ　15 足は、炉の中で精錬され磨かれた真鍮のように輝いていて、声は大水のとどろきのようで

あった。

岩波　15 その足といえば、まるで炉の灼熱で精錬されたもののような、つやのある真鍮に似ており、その声といえば、大水の轟きのようであった。

NRS89　15 his feet were like burnished bronze, refined as in a furnace, and his voice was like the sound of many waters.

Cf. 真鍮brass

2) ルカ23:26 キレネ人シモンが出て来たのは、田舎からか、畑からか？

キレネ人シモンが出て来たのは田舎からか、畑からか？エルコメノン　アプ アグル—「田舎から」出て来たという表現から何を連想するか？ここはむしろ、「畑から」ではないかと思われる。ちなみに23:26以外でルカ福音書において、アグロスの複数形は、8:34村里; 9:12村里; 15:15畑に(やって豚を飼わした)、単数形は、12:28野に(あって明日は炉に投げ込まれる); 14:18畑; 15:25畑（兄が畑にいた）; 17:7畑, 31畑、と訳出されている。なお、ルカ23:26の平行記事はマルコ福音書15:21にあり、また、マルコでは、11:18野原から、13:16畑にいる者は、16:12田舎の方へ歩いて行く（ただし、ここは、写本上追加されたとみなされる個所で、ルカ版の「村」）と訳出されている。

新共　26 人々はイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後ろから運ばせた。

新改　26 彼らは、イエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。

口語　26 彼らがイエスをひいてゆく途中、シモンというクレネ人が郊外から出てきたのを捕えて十字架を負わせ、それをになってイエスのあとから行かせた。

文語　26 人々イエスを曳きゆく時、シモンといふクレネ人の田舎より來るを執へ、十字架を負はせてイエスの後に從はしむ。

フラ　26 さて、イエスを引いていく途中、兵士たちは、田舎から出て来たシモンというキレネ人を捕まえて、十字架を担わせ、イエスの後から運ばせた。

岩波　26 そして彼らが彼を引いて行った時、キュレネ人シモンという者が野からやってきたのをつかまえて、彼に十字架を負わせ、イエスの後から担って来るようにさせた。

田川　26 彼を引いていく時、キュレネ人シモンなる者が畑から帰って来るのをつかまえて、十字架を担わせ、イエスの後からついて行かせた。

NRS89　26 As they led him away, they seized a man, Simon of Cyrene, who was coming from the country, and they laid the cross on him, and made him carry it behind Jesus.

3) ルカ10:25-37　善いサマリア人 の心の思い

ルカ福音書10:25-37のいわゆる「善いサマリア人」のたとえは、あまりにも有名な個所である。ここに出てくるギリシア語で33節のスプランクニゾマイ（憐れに思う：内臓という言葉から派生した語）と37節ホ　ポイエーサス　ト　エレオス　メト　アウツー　＝人（行った＋憐れみを＋彼に）をどう訳するかが問題である。このサマリア人は上から目線で、傷ついた人を憐れんだのではない。また、聞いていた律法の専門家に心の動きがあったとすると、37節は、「その人に思いやりを尽くした人です」という訳ではどうであろうか。

新共　37「その人を助けた人です。」

新改　37 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」

口語　37「その人に慈悲深い行いをした人です」。

文語　37『その人に憐憫を施したる者なり』

フラ　37「憐れみを施した人です」

岩波　37「彼に憐れみ（の業）を行った人です」。

田川　37「その人に慈善を施した人物ですよ」。

NRS89　37 “The one who showed him mercy.”

前のページへ 1 2 3 4 5 次のページへ

■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061　東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989　FAX.03-3567-4436　E-mail. transl@bible.or.jp

ページの先頭に戻る ▲

▶ご利用規約　▶プライバシーの保護について　▶このサイトに関するお問い合わせ

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved.　当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

聖書を知る
聖書とは
聖書翻訳の研究
聖書ができるまで
聖書翻訳の歴史
口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳 について
新翻訳事業について

聖書事業懇談会

それでも新聖書翻訳

津村 春英氏
2015年4月10日
於・梅田スカイビル・タワーイースト

4.文法上の解釈　　主格的属格と対格的属格

1)ピスティス　クリストゥー(イエスークリストゥー)

「キリストへの信仰」か「キリストの信」か

1980年代以降、英語圏のパウロ書簡研究で議論され、日本でも1995年ごろから後者を支持する研究者が増えている。ガラテヤ2:16; 3:22、ローマ3:22, 26、フィリピ3:9など。

2)アガペー　トゥー　パトロス（セウー）

「父（神）への愛」か「父（神）の愛」か

上記1)ほど着目されていないが、ヨハネー2:15、ヨハネ福音書5:42、ルカ福音書11:42など。
拙著『「ヨハネの手紙一」の研究』(聖学院大学出版、2006, pp.69-72; p.197)参照。

おわりに

近年の神学研究の成果をふまえることや底本のネストレ改訂新版からの反映などは、新聖書翻訳においては当然のことであるが、今回の新しい聖書は、礼拝(典礼)で使用されることを前提とし、また、必要最小限の説明を付した、信徒の方々にも親切な聖書が望ましいと考える。今や教職者だけが知っているという時代ではないからだ。また、『NHK新用字用語辞典』に準拠した言葉づかいは現代的であるが、「義しい」「義人」、「宣べ伝える」「宣教」、「贖う」「贖い」、「憐れむ」「憐れみ」、「赦す」「赦し」、「証しする」「証し」、「献げる」、「禍い」、「聖い」など、必要と思われる漢字は残すほうが良いと思われる。いずれにせよ、30年に一度の大事業、しかも、「神の言葉」としての聖書翻訳は、祈り無くしては完成しない、と思うのは私だけではないだろう。

■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. transl@bible.or.jp

ページの先頭に戻る ▲

▶ご利用規約 ▶プライバシーの保護について ▶このサイトに関するお問い合わせ

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。